

背景と課題

孤立が深刻化するほど SOS が出せない ケアされるべきは母親である

ひきこもり 146 万人。うち半数以上は中高年層である。世間体や自己責任の意識から、誰にも相談できないまま高齢化、地域で孤立化していく実態（8050 問題）も潜在化している。

その背景は多様だ。家族関係においては、夫婦間の DV（ドメスティックバイオレンス）や虐待などの精神的暴力があることも少なくない。母親は子どもをなんとかしようと思えば限界まで頑張りがつづくが、夫の無関心、無理解による孤立感から SOS を出せないまま高齢化する。その結果、母子共倒れや、母子心中、親亡き後の孤立死に至ってしまう事例は絶えない。

40 年以上、臨床現場で家族支援をされているカウンセラーの信田さよ子氏は、ひきこもりを抱える家族において「何よりもケアされるべきは母親である」と話す。こころの問題を扱うと考えられているカウンセリングだが、その役割は、絶えず生命の危機と対峙し「目の前のクライアントが生きていくことを支援する」ものでなければならないとする。

家族それぞれが自分の人生を生きていくために必要な支援とは何なのか。本研修会を通して家族が一步を踏み出すために必要なかわりを共に考え、理解を深めていく機会にしたい。

KHJ 全国ひきこもり家族会連合会は 1999 年発足。全国ネットワークを有する唯一のひきこもり家族会（当事者団体）。現在、37 都道府県 56 支部とネットワークを組んで活動している（約 3,000 家族）全国の支援者、有識者とも連携し、誰もが生きやすい社会の実現を目指している。



信田さよ子氏 プロフィール（原宿カウンセリングセンター顧問・日本公認心理師協会会長）

1946 年生まれ。お茶の水女子大学大学院修士課程修了後、駒木野病院勤務等を経て 1995 年原宿カウンセリングセンター設立、2021 年 5 月で所長を引退し現在は顧問。アディクション、摂食障害、ひきこもりの本人とその家族、DV、子ども虐待、ハラスメントや性暴力の加害者・被害者などのカウンセリングを行ってきた。DV 加害者プログラム実施中。日本公認心理師協会会長、日本臨床心理士会理事。

著書に「アディクションアプローチ」「DV と虐待」「加害者は変わるか」「母が重くてたまらない」「アディクション臨床論」「家族と国家は共謀する」「タフラブ・絆を手放す生き方」など多数。再新著は「家族と厄災」（生きのびるボックス）。



お申し込みはこちら

お申し込み方法

Peatix

<https://khj-lecture-2023.peatix.com/>

お申し込み期限

会場参加：11 月 26 日（日）13:30

後日オンデマンド視聴：12 月 3 日（日）13:30



研修受講費（全て税込）

- 現地参加：5,500 円
- 後日オンデマンド視聴：5,500 円
- 現地参加と後日オンデマンド
視聴の両方：8,800 円

適格請求書発行事業者登録番号
T5030005002918

後日オンデマンド動画視聴：1 月からの予定です。
動画の URL とパスワードをご連絡します。

問い合わせ先 特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 本部事務局
〒170-0002 東京都豊島区巣鴨3-16-12-301
TEL:03-5944-5250 FAX:03-5944-5290 MAIL:info@khj-h.com

※都合により内容などが変更になる場合があります。